

泉州勤労者山岳会 大西清見

宮津市、舞鶴市、福知山市、与謝野町の4つの市町にまたがって大江山連峰があります。大江山連峰は西から赤石岳～仙丈ヶ嶽～普甲峠～杉山～宇野ヶ岳～赤岩山と連なり、そのトレイルは赤赤縦走路と呼ばれています。今回はその一部、杉山と中腹に並行して敷かれた杉山林道のことを少し書いてみようと思います。

杉山は地質学の分野で、橄欖岩（かんらんがん）質の特殊な地質からなることで注目されています。杉山の中腹には約4キロの林道があり、中間点の林道沿いには大きな節理の入った橄欖岩の岩盤が現れます。節理に沿って雨水が浸透して侵食が進まず、谷ができません。このため杉山は全体にのっぺりした地形になっていて、地形図上でも橄欖岩の分布を読み取ることができるほどです。

また、杉山には名前の通り、杉の巨木が点在しています。杉の巨木群は林道の終点辺りに見られ、地元の方に尋ねると杉の巨木は130本ほどを数えるほどです。高さ2～3mくらいのところで何度も伐採されるため、いわゆる「あがりこ」の様相を呈し、奇怪な形になったものが多く見られます（写真左）。林内の湿度が高いため、幹を伐採しても残った株から萌芽し、それが大木に育つそうです。

この春、杉山には二度行く機会がありました。その一つが3月29日、泉州労山5名、上宮津杉山エコガイドの会・久古直子さんのガイドで杉山林道を歩きました。中間点の屏風岩（大きな一枚岩が屏風のように並んでいます）で、4億6千万年前の岩石で、京都府で最も古い岩体で、これが橄欖岩だと説明していただきました。花の開花は少し早めでしたが、このころ黄色い花が多いようです。ミツマタ、ヒュウガミズキに初めて出会ったキンキマメザクラ（写真右）など春の花を楽しむことができました。杉山の中腹から頂上へ天然杉が群生しています。古いものは樹齢300年以上、その多くは積雪2～3mの中で伐りだされ、雪の中に残った下枝や萌芽したものが数十本立ち上がって幹になり、株杉となったようです。その樹形はそれぞれ個性があり、神秘の杉、千手観音杉、天狗杉などと名付けられていました。いつかまた、残りの天然杉群を再訪したいものです。



神秘の杉



キンキマメザクラ